

評価コメント

- ・症例のエントリーが思わしくない様であるがぜひ予定数のエントリーが完成することを期待している。
- ・より多くの研究調査協力者が得られるよう更なる工夫、努力をして欲しい。
- ・早期介入によって、アトピー性皮膚炎の発症を防ぎ、それによってアレルギーマーチを阻害し、喘息の発症を予防しようとするアイデアは興味がある。しかし、そうすると全体をフォローするのに、かなり長い年月を要するので、それに対応できるだけの研究体制を整える必要がある。もし可能ならば、アトピー性皮膚炎の発症率が高いことが分っている家系の人を選択的に被験者に選んだ方が、結果がよりクリアに出るのではないだろうか？
- ・シンバイオティクスの早期発症喘息の予防効果はコンセプトとして魅力的であるが、患者組み込みが(2/3の拒否率)今後改善される必要がある。
- ・喘息は乳幼児期に発症することが多く、新生児期からの検討は重要である。国際的にも少ない研究であり発展を希望する。ただし、脱落例も一定程度出る可能性があり、数を十分にとる必要があろう。
- ・乳児期からのアレルギー疾患の予防に関する研究で興味深い。研究班員に統計の専門家が入っていることは評価できる。ただ、アレルギー疾患は両親の要素が大きい病態なので、無作為に割り付けても100~200名の集団で評価が可能か、十分に検討していただきたい。研究期間内に結論が出ない可能性があるが、次期への研究継続の提案も含めてしっかりしたプロトコールを作った方が良い。
- ・プロトコールは完成しており、途中経過では遅れはあるが順調であろう。ただし、この限られた期間と研究費で最後までやり遂げられるのか否かが不明である。また、皮膚バリアの破綻、経皮感作と経消化管感作(消化管の炎症を起こさせない?)の阻止で如何に喘息発症が予防できるかを検討するが、その場合経気道感作の関与はいかに考えるか？
- ・研究のスタートが昨年10月と遅く、発表では以前の研究成果に終始した。本年はまだ十分な対象者数が得られていない。しかし、その対処をしているとの発表があり、エントリーについては期待できる。
- ・乳幼児の腸内Staphylococcus検出については、母親乳房からの授乳に関わるといふ仮説を検証できれば予防対策に有効な手段となり得る。
- ・本研究の結果によっては巷で取り沙汰されている乳酸菌の有用性についてある程度の結論が出るのではなかろうか。
- ・経皮感作予防と良好な腸内細菌叢の確立による早期のアレルギー発症予防の研究は大変興味深い。しかし、喘息発症となると気道感染や気道過敏性の関与が加わると思うので、その点が問題になるのではないかと思う。